

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	健康づくり課
会議名 (審議会等名)	令和7年度 嬉野市第1回食育推進会議		
開催日時	令和7年6月25日（水） 14:00～15:20		
開催場所	塩田保健センター2階 会議室		
会議の公開の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委 員	森委員（会長）、川原委員（副会長）、末永委員 坂井委員、田口委員、田中委員 白川委員、小笠原委員、北村委員 江川委員、田代委員、坂元委員	
	事務局	市長、市民福祉部長、健康づくり課長 健康づくり課統括保健師、健康づくり課副課長 健康づくり課主任、健康づくり課主事	
	その他		
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	・ 会議レジメ ・ 市報6月号		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

	所管課	健康づくり課
審議経過	1. 開会 2. 委嘱状交付 異動・役員改選等で今年度委員を交代される方4名のうち欠席者を除く3名へ交付 3. 嬉野市長挨拶 物価高が続いているが、生産者と消費者で考えに乖離がある。ただ安ければいいというわけではなく、生産者の努力に見合った金額はどれくらいなのか、契約を見直す時期にきている。食育の場が新たな契約を結ぶにあたって大事なことを次世代の子どもたちに教えていく場になっていくと思う。食育推進についてそれぞれの立場からご意見をいただきたい。 4. 嬉野市食育推進会議会長挨拶 5. 協議事項 【事務局】出席者数12名、委員総数14名の過半数を超えているので本会議は成立する。 (1) 令和6年度嬉野市食育推進事業報告について 1) 食育推進事業について 【事務局】P1・2について説明 昨年度はこの会議が佐賀県食育賞を受賞したこともあり、委員同士の繋がりによる食育活動が進んできていると感じる。栄養教室は食生活改善推進員と交流する機会を増やしたことで、修了率が非常に高い結果となった。3歳児健診における食育指導の結果では、ほとんどの家庭で朝ごはんは食べているが、そのうちバランスよく食べているのは30.4%とあまり多くなかった。乳幼児健診で配布している食育の資料に、朝ごはんのとり方について具体的な内容を追加し、今年度から配布する。 2) 食育広報及び食育推進に関する調査について 【事務局】P3・4について説明 昨年度は、「食育講演会」や「子供が作る弁当の日」など、子どもたちの食育の取り組みを積極的に広報した。行政放送では、食生活改善推進員の皆様のご協力をいただき、郷土料理や特産品を使った料理の作り方を紹介した。 3) 食育賞について 【事務局】別紙1「食育ネットワークさが情報誌 生きる力」について説明 食育賞は、食育推進の功績があった個人または団体に佐賀県知事が表彰するものである。これまで嬉野市では12の個人や団体が受賞されており、第17回では本会議が受賞した。委員の皆さんからも自薦他薦問わず、推薦の情報をいただきたい。 (2) 令和7年度嬉野市食育推進事業計画について	

審議経過	1) 食育推進事業計画（案）について 【事務局】P5 について説明 食育推進会議は新たに 4 名の委員に所属していただいたので、様々な意見をいただきたい。食生活改善推進協議会の活動であるおやこの食育教室は、昨年度好評だったため、今年度は夏休み中に 2 回に増やして実施する。 2) 食育広報及び食育推進に関する調査（案）について 【事務局】P6・7 について説明 市報やホームページで毎月紹介しているレシピは、今年度 5 月までは「ふるさとレシピ」、6 月からは新たに「健康レシピ」を掲載している。ふるさとレシピをまとめた「ふるさとレシピ集」を発行し、本日配布している。今年度も市内での食育の取り組みを各種媒体で積極的に紹介したいので、実施される場合はご一報いただきたい。 (3) 委員の皆さまの食育活動と嬉野市の食育について（事前アンケートより） 1) 活動状況と今後の予定について 2) 嬉野市の食育について 【事務局】嬉野市の食育について感じることにについてご意見をいただいた内容で、行政として今後取り組みができることをお伝えする。前回の会議のときに、子どもや若い世代の朝食が乱れているのではないかという意見が出たので、今回のアンケートでは少し目的を絞って朝食について伺った。有線放送で郷土料理を流してほしいというご意見があったが、食生活改善推進協議会のご協力をいただき、令和 4 年度からみそ玉の作り方やおはぎの作り方などの料理の動画を放送している。今年度も郷土料理を新しく撮影して放送する予定である。母子保健推進員に味噌玉作りと簡単おやつ作りの講習をしてほしいというご意見については、今年度計画する予定である。1 歳半健診のときなどに保護者への朝ごはんの大切さを話してはどうかというご意見については、現在 3 歳児健診で朝ごはんについてお話をしているが、適切な時期に適切な内容をとということで少し内容を検討していきたい。また、事務局としては味噌玉のワークショップができたらと考えている。そういう場がないかも含めてご意見を伺いたい。 【委員】今年度 4 月から子ども食堂を立ち上げた。2 回実施して、70 名から 100 名ぐらい集まっていた。実際にこういう活動をする地域の中で様子が気になっていた人が来たり、お互いの情報交換ができたりと地域の課題を共有する場ができたと感じる。食事の場を通して、地域に暮らす人たちが問題意識を持って集まることが食育に繋がるのではないかなと思う。 【委員】老人会での食事作りやお正月の花かざりなどを行う予定である。 【委員】昨年度は PTA 母親部主催で教育の日に食育講演会を行った。スポーツと栄養についての話がとてもよかったため今年度も実施したかったが、別の行事が入っているので実施は難しい。 【委員】生後 4 か月頃の赤ちゃん訪問の際に朝食の大切さなどを伝えているが、時短で簡単に作れるものと言えば味噌玉が一番だと思う。母子保健推進員に味噌玉と簡
------	---

審議経過	単なおやつの講習をしていただきたい。 【委員】今年は特に米の問題が取り沙汰されているが、今は米も肉もきれいにパック詰めして売られているので、どのようにしてできているのか、命の繋がりが見えていない。今度子どもたちに講演をしに行くので、その時に命は繋がっていることをお話したい。直売所では野菜のロスができるだけ出ないように、「こんな風にして食べたらいいいよ」と簡単に説明するようにしている。 【委員】「早寝・早起き・朝ごはん」というフレーズは、子どもたちもすぐに言えるくらい頭の中に入っている。しかし、朝ごはんの内容を聞いてみるとパンに牛乳が付けばまだいい方で、主食だけ、果物だけ、アイスクリームだけの子もおり、何かを食べさえすればいいという朝ごはん事情だと感じる。核家族化が進んでおり、朝味噌汁を食べる子は本当に少ないと思う。味噌玉の話が出たが、保育園としては、まず何かを食べてくる、お菓子ではなくごはん、それに飲み物かスープをつけるというレベルで進めていかななくてはならない。米の話があったが、散歩をしながら田植えや稲刈りを見て、「お米はあんな風にできるんだね！」と親しみを持たせるのも園の役目だと思うので、小さいことから食育につなげて行けたらと思う。また、核家族化が進んで煮物などに馴染みがない子どもが多いと感じる。「今日はこれが食べれましたよ。おうちでも作ってみてくださいね。」と給食のレシピを紹介している。 【委員】園長先生から、保育園でお米を炊いて子どもたちに食べさせたいという相談があったが、米の値段もあがっており、施設や食器も見直さないといけなくなるので現状は難しい。家から持ってきたごはんは冷たくて食べなかったり、行事食のときに炊き立てを出したらいっぱい食べてくれたりということがあるので、炊き立てごはんを提供できる施設だといいなと思う。味噌玉作りについては、嬉野市13か園で給食研究会をしているのでそこで出前講座としてきてもらうのはどうか。味噌づくりをする園が多く、味噌玉を作りたいという園もあるので、作り方などを教えていただけたらと思う。 【委員】嬉野市の給食は、嬉野産うまかもん給食などで、地元の食材や旬の食材をしっかりと使われているのでとても美味しい。保健室から子どもを見ているが、しっかりと食べる生徒は、心も体も健康だと感じる。家庭でも大したものではなくてもみんなで食べることが大切だと思う。 【委員】コミュニティで収穫した野菜を給食に取り入れている。全クラスに食育授業をしている。5年生で朝食についての内容を取り扱い、中学生になったときにアンケートをとるが、朝ごはんを毎日食べる人は9割程度しかいない。授業参観で食育の授業をしたり、給食だよりを配布したりと保護者へ啓発をしていきたい。 【委員】食育基本法が制定されて20年を迎え、当時は食育に関心を持つ国民の割合が69.8%だったのが、現在は80.8%と10%ほど上がったと農業新聞に記事が載っていた。昨今の米の問題だが、今年嬉野市の米の作付を見ると、販売店での米の値段が上がった分、農家の皆さんが作る面積が増える予定である。高温に強く収穫量が多い「ひなたまる」という品種が、佐賀県各地で試験的に作付けが始まった。嬉野市は観光地でもあるので、嬉野市を訪れる人の食育についても考えて行けたらと思う。
------	---

	【委員】私たちの体は食べた物でできているという意識づけができていない。食材がたくさんあるが、偏った食べ方が多い。話を理解して実践してもらうためには、「バランスよく食べましょう」「野菜を食べましょう」というだけでなく、根拠を話すことが大事。現在は、家族団らんで食事をする家庭が少なく、家庭の中で食事の作法やマナーを身につける機会が減っていることが食育の大きな問題だと感じる。 【委員】今後の活動で重点的に取り組みたい活動があれば教えてほしい。 【委員】3歳児健診で配布している資料を赤ちゃん訪問の際にも配りたい。 【委員】学校給食で、嬉野市の産物はどれくらいの割合で納められているか。 【委員】割合は出せていないが、「うれしの産うまかもん給食」として補助金をいただいているので、直売所において1か月に5日程度納めてもらっている。しかし、季節によって変動がある。830名分の給食を作っているが、直売所側も高齢化でまとまった量を集めるのが難しくなっているということだった。調理員の時間的な制約もあるので、どんな不揃いのものでいいから市内でとれたものを使うということは難しい。 【事務局】味噌玉のイベントをしたいと考えているが、皆様の職場や団体にイベントを開く機会があるか。そのイベントの一角で味噌玉作りができればと思う。 【委員】塩田小学校が教育の日に塩田津で「よかところ祭り」を開催する。そこで児童が発表をしたり、販売したりするので、その一角に設けたらどうか。 【委員】保育参観の食育講演会のあとに味噌玉作りをするのはどうか。 【事務局】今年度は、味噌玉をただ広めましょうというのではなく、体験的な場を設けていきたい。今後そのような場があれば教えていただきたい。 6. その他 (1) 嬉野市「子どもが作る弁当の日」取組みについて 【事務局】配布資料『嬉野市「子どもが作る弁当の日」実施に関する調査結果』で報告。令和6年度は市内全ての小中学校で実施していただき、特に5.6年生は自分で作っている児童が多かった。子どもの自主性につながるなどいい効果があるので、引き続き推進していきたい。 (2) 嬉野市食育推進会議委員名簿 7. 閉会 以上
--	---